柳澤融先生を偲んで

二ツ川章二

昨年の 11 月 12 日，柳澤融岩手医科大学名誉教授がお亡くなりになられた。1 年に及ぶ闘病生活も叶わず，85 歳の生命を閉じられたとのことである。先生は，昭和 27 年岩手医科大学をご卒業後，昭和 41 年に新設された岩手医科大学歯学部放射線学講座教授，昭和 49 年から岩手医科大学医学部放射線医学講座教授として，核医学，放射線治療等幅広い分野の研究，臨床において放射線医学の発展に大きな功績を残された。12 月 8 日に催された岩手医科大学放射線講座とご遺族による合同葬では，会場であるホテルが準備した椅子が足らなくなるほど多くの会葬者が参列したことに，生前の先生の偉大なる足跡と温かいお人柄が偲ばれた。

先生は，日本アイソトープ協会において昭和 59 年～平成 8 年まで医学・薬学部会常任委員，昭和 61 年～平成 4 年まで理事，平成 4 年～14 年まで顧問として，当協会の発展に尽力された。特に，昭和 62 年，岩手県滝沢村の日本アイソトープ協会滝沢研究所の設立においては地元の有識者として大いにご活躍いただいた。滝沢研究所建設にあたっては，放射線・放射能への不安を持つ地元住民が反原発運動家の支援を受け，激しい建設反対運動が行われた。滝沢村は建設の理解を得るため，建設予定地周辺で数多くの住民説明会を開催した。日本アイソトープ協会役職員は当事者として事業内容の説明のために参加し，柳澤先生は滝沢村からの依頼により放射線医学の専門家として参加された。説明会では，“御用学者”等と反対派住民から激しく罵られる場面もあったものの，時には柔和に，時には毅然と，放射線・アイソトープの重要性と安全性を懇切丁寧に説明されていた。また，地元のテレビ，新聞等のマスメディアにも積極的に登場していただいた。そのような中で，先生は「滝沢村の患者さんが来られると，特別に気が引き締まります」とお話されていた。反対派住民には十分理解していただけなかったものの，多くの滝沢村民の支援により滝沢研究所が建設できたことは，先生の力が大きく働いたものと感謝せずにはいられない。

また，平成元年同敷地に設立された仁科記念サイクロトロンセンターにおいて，同センターの臨床利用の責を担う岩手医科大学内の使用者の声をまとめていただき，平成 5 年から臨床利用を開始することができた。先生は同センターに併設された初代岩手医科大学サイクロトロンセンター長に就任され，センター発展に尽力された。臨床利用を始めるにあたり，真っ先にボランティアを志願し，満足そうにご自分の脳の PET 画像をご覧になっていた姿が思い出される。

先生は，学問だけではなく，ご趣味も多岐にわたっていた。マイクを握ってのカラオケ，長尺ドライバーを持ってのゴルフ等をご一緒させていただき，本当に楽しい時間を過ごさせていただいた。もう，眼光厳しくもお優しい先生にお会いできなくなるとは，本当に残念である。

心よりご冥福をお祈りします。合掌。

（日本アイソトープ協会）